

Persistent prevalence of polycythemia among evacuees 4 years after the Great East Japan Earthquake:

A follow-up study

東日本大震災 4 年後も継続する避難住民における多血症の発症：経過観察研究

坂井晃

福島県立医科大学医学部放射線生命科学講座
福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

著者

坂井晃^{1,14}、中野裕紀^{2,14}、大平哲也^{2,14}、細矢光亮^{3,14}、安村誠司^{4,14}、大津留晶^{5,14}、佐藤博亮^{6,14}、川崎幸彦^{3,14}、鈴木均^{7,14}、高橋敦史^{8,14}、杉浦嘉泰^{9,14}、宍戸裕章^{10,14}、林義満^{6,14}、高橋秀人^{11,14}、小橋元¹²、小笹晃太郎¹³、橋本重厚¹⁴、大戸斉¹⁴、阿部正文¹⁴

1 福島県立医科大学医学部放射線生命科学講座、2 福島県立医科大学医学部疫学講座、3 福島県立医科大学医学部小児科学講座、4 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、5 福島県立医科大学医学部放射線健康管理学講座、6 福島県立医科大学医学部腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座、7 福島県立医科大学医学部循環器・血液内科学講座、8 福島県立医科大学医学部消化器内科学講座、9 福島県立医科大学医学部神経内科学講座、10 福島県立医科大学医学部整形外科科学講座、11 福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター情報管理・統計室、12 獨協大学医学部公衆衛生学講座、13 放射線影響研究所疫学部、14 福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター

要約

我々は、東日本大震災後の 2011-2012 年の政府から避難指示のあった 13 自治体における健康診査(平均 1.6 年)において、避難をしている住民は避難していない住民と比較して多血症の発症が有意に高いことを既に報告 (Sakai A, BMC Public Health, 2014) しました。

今回は 2013-2014 年の健康診査に基づく東日本大震災後約 4 年時(前回の解析から平均 2.5 年)の多血症の発症状況を解析しました。

対象は避難区域等 13 自治体の住民で震災前、2011-2012 年および 2013-2014 年の健康診査における末梢血液検査 (CBC)の結果のある人で、7,713 人(男性 3,349 人、女性 4,364 人)です。多血症の診断基準は、赤血球数 (RBC)、ヘモグロビン (Hb) 値およびヘマトクリット (Ht) 値のどれか 1 つが基準値を超えた場合としました。

RBC、Hb、Ht の全てにおいて、2013-2014 年の結果は 2011-2012 年のそれらに比べ減少傾向にありましたが、Hb と Ht は男女ともに震災前の値より有意に高い値を示し、多血症の発症も有意に多いとの結果になりました。また、この多血症の発症は、肥満や喫煙、高血圧症の有無に関係なく避難している住民において有意に多く認められました。多血症の長期化は心臓血管系の疾患の発症とも関係するため、今後も健康診査による住民の見守りが重要と思われます。

掲載情報

「Preventive Medicine Reports」 (2017)

Sakai A, Nakano H, Ohira T, Hosoya M, Yasumura S, Ohtsuru A, Satoh H, Kawasaki Y, Suzuki H, Takahashi A, Sugiura Y, Shishido H, Hayashi Y, Takahashi H, Kobashi G, Ozasa K, Hashimoto S, Ohto H, Abe M; Fukushima Health Management Survey Group.

Preventive Medicine Reports. 2017 Jan 12; 5:251-256.